

19.3 期 中間決算説明会 質疑応答記録

Q : 資料 P6,P12 の増減内訳について、生産売上代価増減のセグメント別の上期実績と通期計画を知りたい。

A : P6 上期の 20 億円増益の内訳は、産業機械事業は生産量増加による改善で 5 億円、素形材・エネルギー事業が上期の売上増により 15 億円。P.12 の年間では 36 億円増益の計画だが、内訳は産業機械が 24 億円、素形材が 12 億円。素形材は上期 15 億円で年間 12 億円なので下期 3 億円減る計画。下期の売上は増えるが、出鋼量が昨年度より 1,400 t/月減る見込みで、この操業減による悪化が主な理由。上期の受注が少なく、下期の受注は翌期の操業にずれていくため。

Q : 素形材・エネルギー事業は、下期に前年度対比で棚卸資産処分の+17 億円があるので、それを考えると下期が大幅に赤字になる前提か？

A : 素形材・エネルギー事業は、前年対比で 31 億円良くなる計画だが、棚卸資産処分の戻りで 17 億円あるので、実質 14 億円ほど前年対比で増益。下期は操業減による影響があり、また上期は為替もよかった。上期は、107 円/ドルが 111 円/ドルで為替差益となったが、昨年度下期は 114 円/ドルの実績で、ユーロ建てでも下期は円高の方向となったので、為替差損が出る方向になっている。

Q : フィルム・シート製造装置は、期初の説明では下期から回復とのことだったが、中国の状況も変わってきている。中国は 2020 年頃の需要回復との説明だが、その回復タイミングの見方はどのように考えているのか？

A : 5 月の決算説明会では今期下期から回復と説明したが、顧客に直接話を聞くと、足元中国では設備過剰がひどいとのことで、後にずらした。詳細は事業部長より説明する。

A : 5 月の決算説明会では下期から復活と言ったが、実際は EV が売れておらず、セパレータも消費されていない。結果的に設備過剰の状態。車載用電池も同様で、業界では「作り負け」と言われている。需要復活時期の見方は非常に難しく、1~2 年、悪くても 2 年を超えないだろうと一般にも言われている。現在は、中国とそれ以外の地域で 2 極化していて、日本、韓国のセパレータメーカは、国内、中国、欧州への投資に動いている。下期は、その案件を確実に受注していく。

中国は需要回復が遅れているが、国策である「青い空を取り戻し、NEV で世界 NO.1 の自動車大国を目指す」という方針に基づき、2019 年から NEV 規制も始まるので、2 年より早くセパレータ向けの状況は復活すると考えている。

その間は、大型造粒機とセパレータ以外のフィルム・シート製造装置で受注の不足分をカバーしようと考えている。プラスチックの基礎原料であるオレフィン系の樹脂をつくる造粒機は、2~3 年周期で需要が変動するが今年度は好調な年。上期で既に年間の受注計画の 1.5 倍を受注した。セパレータ用フィルム・シート製造装置の未達分の半分をこれで補い、あとの半分は需要が増えている食品用、包装用や、大型テレビ、デジタルサイネージに使用する光学用途を取り込んでいく。また、スマホ、自動車など電子機器内のコンデンサに使われるフィルムなども出始めているので、これらも下期には受注したい。

Q : フィルム・シート製造装置の売上は今期受注残があるので堅調だが、このままの受注が続くと来期はどのくらい売上が減少するのか？

A : 次年度は、計画に対して 10 ライン~15 ライン/年くらい少なくなると見込んでいる。

Q : フィルム・シート製造装置の売上が来期減る可能性がある一方で、クラッド鋼管や射出成形機は堅調である。全体の営業利益に関して、中期経営計画最終年度の 21.3 期は 300 億以上の目標だが、中間年度である来期の利益の見方として、いったん減益だが 21.3 期は急回復なのか、来期は横ばいで 21.3 期は 300 億円を超えるのか、または来期も増益か、中間年度の状況をどのように考えているのか？

A : 来期はこのまま増収増益はないと思っており、いかに横ばいにするかを各事業部と考えているところである。良くて横ばいというイメージ。セパレータ向けフィルム・シート製造装置の需要回復というポイントはあるが、来期は横ばいになって最終年度の 21.3 期にはまた伸びるという形を考えている。

Q : 樹脂製造・加工機械の受注内訳の上期実績で、造粒機、フィルム、二軸混練押出機の各受注割合と通期の各計画について聞きたい。

A : 上期実績の 338 億円は、樹脂製造（造粒機、二軸混練押出機）と加工機械（フィルム・シート製造装置）で半々くらい。樹脂製造では大型造粒機を受注したので樹脂加工のずれた分を挽回した。通期の 630 億円では、中国のセパレータ向けが減る分、樹脂製造とセパレータ以外のフィルム・シート製造装置で挽回していく考え。当初計画は、6 : 4 ~ 7 : 3 の割合で加工機械を多く考えていた。

Q : 中国のマーケットは 2020 年から戻るとのことだったが、それまで 2 年くらい時間があるため、競合他社に技術的に追いつかれる可能性はリスクとして考えているのか？

A : もちろん考えている。その為にコストダウンは必要。また、フィルムが薄くなってきているので、いかに技術的に競合に勝つかが課題。顧客によると、液晶の時の比ではないくらいフィルムの価格が下落しているというので、生産性の向上、例えば幅を広くするか生産速度を上げるなどして差別化できるよう万全を期す。日本の顧客に納入して満足いただく性能を維持していれば、中国でも最先端として通ずるので、日本、韓国の顧客にしっかりついていく。

Q : 素形材・エネルギー事業の室蘭製作所における新会社設立の検討について、短期的な影響と中長期的な計画、同業他社への売却、業界再編の可能性についてご教示いただきたい。

A : 素形材エネルギー事業の業績を回復させる手段として分社化を検討している。業界再編については、具体的な話もなく、それを見据えて分社化したわけではない。市場規模が縮小しているため、再編したところで、どこかが生産を辞めなければいけない状況になるようでは困るので、将来については慎重に方法を検討していかなければならない。

以上